

2020年度 学校評価（自己評価）報告書

評 価 項 目		自 己 評 価
I 教 育 課 程	1. 教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染防止対策をとりつつ、新入生及び在校生に対しては学年集会・行事等で、保護者に対しては保護者会等で教育目標を周知した。 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）の目標について、在校生に説明するとともに、オンライン学校説明会参加者にも周知した。
	2. 教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標に則し、新学習指導要領に向けて適切な教育課程を編成した。 SSH指定校として、教育過程を適切に実施した。
	3. 年間授業日数・時数	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染拡大による臨時休校終了後、長期休業期間の見直し等により必要な授業日数及び時数を確保した。
	4. 教育活動とその成果	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染拡大による臨時休校時には、Moodle等を活用して、適切な学習支援を実施した。 学校再開後は、新型コロナウイルス感染症感染防止策の徹底に努めつつ、各教科とも適切な教育活動の実施に努めた。
	5. 行事	<ul style="list-style-type: none"> 体育祭・文化祭・ダンスコンクールが中止となり、コロナ禍における自治会行事の在り方を見直し、大学の指導を仰ぎながら感染防止対策を徹底した代替行事を無事に実施することができた。 自治会選挙や自治会総会をオンライン（同時双方向型）で開催し、滞りなく運営した。また、新しい自治会運営の形を実現する良い機会となった。
	6. 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 進路委員会を開催し、学年間の連携を促すとともに、組織的な対応を強化した。 大学入学共通テスト導入や新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴う入試形態の変更について、保護者会及び学年集会を通して適切な情報発信を行った。 学年に対応するキャリア教育実施を補助するとともに、学習歴の記録の仕方についての検討に着手した。
	7. 研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> SSH指定校（2年目）として、ICT機器を活用しながら研究開発に取り組み、推進した。 校内研修会を8、9月に実施し、SSHの全校体制の推進を行った。 大学と連携し、ICT機器も活用しながら授業研究等を進めた。 個人研究費を図書費、教材費などに有効活用した。
	8. 帰国・国際教育	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、台湾研修の実施を見送り、オンラインミーティングによる交流に切り替えた。本校生徒9人と台北市立第一女子高級中学生徒10人が「新型コロナウイルス」に関連したトピックで英語でグループディスカッションおよび発表を行った。 上記と同様の理由で、AFS、IFAなどが主催する短期・中期の留学生の受け入れは行うことができなかった。
	9. 自治（会）活動の指導	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍においても感染防止対策を徹底し、形を変えながら自治会活動が継続できるよう適切な指導・支援を行った。 自治会会計について、適切な予算編成、執行、決算、監査がなされるよう指導した。
その他		
A 普 通 教 育 を 行 う 学 校 園 と し て	1. 経営・組織	<ul style="list-style-type: none"> 国立大学附属学校に関する有識者会議の報告を受けて作成された「附属学校教員の勤務時間の適正な管理について」に基づき、会議時間の短縮、勤務時間の適正化に努めた。 学校経営計画を立案し、重点目標を決定し、学校評価を円滑に行った。 企画運営委員会を40回開催（2月末まで）し、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を中心に、運営体制のあり方や業務内容の検討を行い、円滑な学校運営に努めた。 PTA、教育後援会、同窓会等と連携して教育環境を整えることに努力した。
	2. 出納・経理	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため、行事や学外引率・出張等の中止に関連する支出額減少、ICT環境整備に係る支出額増加など、例年とは異なる校費、運営基金、諸費用の運用を迫られたが、預かり金徴収額を調整する等で適正に執行した。 校舎改修・環境改善事業募金を適正に管理し、運用は次年度に見送った。 SSH予算を適正かつ効果的に運用した。
	3. 施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染防止対策として、未整備だった校舎（廊下及び特別教室）及び体育館下窓の網戸を設置した。 特別教室（合併室・化学室）のICT教育環境系備品を更新した。特別教室への放送設備分岐工事については翌年度の整備課題となった。
	4. 健康	<ul style="list-style-type: none"> 学校保健安全計画に基づき、生徒の健康の保持・増進ならびに安全教育に努めた。 新型コロナウイルス感染症感染拡大による臨時休校時には、適時に健康観察や健康調査を実施した。 学校再開後の感染症対策として、Moodleを活用した毎朝の検温・健康観察を実施した。 生活会議において教員全体の情報共有と共通理解をはかり、カウンセラーやスクールソーシャルワーカー、担任団との連携をはかりつつ、個々の生徒に対する健康相談および支援を行った。
	5. 安全	<ul style="list-style-type: none"> 改修に伴った安全管理体制の見直しを行った。 防災倉庫の防災備蓄品の入れ替えを行った。 新型コロナウイルス感染症感染防止のため、4月の防災館訓練及び避難訓練を中止し、11月の避難訓練（大規模地震発生を想定）においては、屋外への避難経路の確認と講話を実施した。また、HRにおいても「お茶の水女子大学防災教育テキスト」を活用した防災指導を行った。
	6. 情報	<ul style="list-style-type: none"> 成績処理用ソフトの更新を完了した。 GIGAスクール構想で配分された予算によって、校内ネットワークの増強及び無線LANアクセスポイントの増設を行ったが、1クラス40人による一斉アクセスに耐えうる更なる環境整備が急務である。 ICT機器の増強及びICT機器管理のためのキャビネット類の設置をし、情報資産の適切な運用・管理を行った。
	7. 開かれた学校	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、休校等活動自粛の影響を受けて活動報告18件と例年に比して数は少ないが、ホームページを可能な限り効果的に運用した。 新型コロナウイルス感染症感染防止対策のため、10月にオンラインによる学校説明会を開催した。関東圏外や海外在住、また小学生の参加も見られた。（参加者数：430組） 保護者授業参観は、新型コロナウイルス感染症感染防止のため中止とした。 学校評議員会および学校関係者評価委員会を8月（対面）・2月（文書）に開催し、コロナ禍における学校運営および学校評価について有益な助言を得た。
	8. 入学検定	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策を徹底しつつ、入学検定を公正・適切に実施した。 入試問題の作成においては、昨年度に引き続き、日程を含めてチェック体制の強化、維持に努めた。
	9. 保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> PTAや教育後援会の総会は書面で行い、保護者会は一部オンラインで行うなど、保護者と学校間の連絡を適切に行い、意思の疎通を図ったが、対面での保護者会等の中止もあり、十分ではない部分もあった。 「子宮頸がんとHPVワクチンについて」のリーフレットを、会長名文書とともに配布し、啓発を図るなどの試みを行った。 組織の改革による効率化を引き続き目指した。 PTAと教育後援会との連携を図った。
	10. 学年活動	<p>1 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生としての自覚を持たせ、基本的な生活習慣、学習習慣を確立できるよう支援した。 学校行事や委員会・部活動などを通して、自主・自律の精神および他者と協働できる態度を養うよう努めたが、コロナ禍による生徒活動の縮小の影響からその成果は十分とは言えず、引き続き取り組んでいく必要がある。 学習のガイダンスを定期的に行い、学習意欲の向上と基礎学力の定着を図った。 キャリア教育の推進によって進路選択の幅を広げられるよう支援した。 <p>2 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的な学習習慣の定着を促し、基礎学力の充実を図るとともに、発展的・探究的な学習を通して、総合的な学力の向上を図った。 卒業生による進路講演会（オンライン）や3回の学力測定など、進路・キャリアについて考える機会を計画的につくり、自己実現可能な進路選択を指導、支援した。 例年通りの行事ができない中、新しい行事の企画や運営に主体的に取り組み、目標を達成できるよう活動を指導・支援した。 例年と異なる環境の中、自律した生活習慣と安定した学校生活を送れるように支援した。 <p>3 学年</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の中で、計画的に模試を組み込み、また複数回面談（1学期1回・夏休み三者面談・2学期2回・3学期希望者）を行い、生徒たちの主体的な進路選択を支えた。 大学入学共通テスト初年度の学年でもあり、大学入試に関しては変更点が多くあったが、LHRなどを活用して、生徒に詳細な情報提供を心がけ、進路データを活用して面談などを実施した。 コロナ禍の影響で、3年生が中心となる行事が全て中止となったが、自治会総会など生徒の主体的な活動に適切に関わり、また次年度の行事实施を見据えて、2年生への引き継ぎなどを行うよう支援した。
その他		

B 大 学 の 連 携 の 附 属 校 園 と し て	I 大 学	1. 連携研究	<ul style="list-style-type: none"> ・大学関係の研究調査依頼が1件あり、調査に協力した。 ・学校教育研究部を中核とする5附属校園間の連携研究に17名が参加し、研究に寄与した。 ・「新教養基礎」は新型コロナウイルス感染症による休校により2回分の実施ができなかったが、オンラインでの実施を試みるなど昨年度の修正案を元に授業形態を変え、生徒がより有機的に学べるよう改善した。 ・大学の公開授業をのべ55名（履修:42名、聴講:13名）の生徒が受講した。 ・「選択基礎」を7名（文教育3名、理学部3名、生活科学部1名）が受講し、特別選抜入試で7名がお茶の水女子大学に進学することになった。 ・例年行われている附属高校生向けキャリアガイダンスは移行期のため今年度は休止し、キャリアガイダンス代替措置を2年生の希望者対象に行われた。 ・東京工業大学サマーチャレンジに3年生7名が参加した。特別選抜入試には3名が合格し、さきがけ教育をオンラインにて受講した。 また、12月にはウィンターレクチャーを実施し、1・2年生全員及び3年生希望者が受講した。 ・筑波大学附属高等学校とのキャリア教育連携の取り組みとして、1年生の進路講演会をオンデマンド講演会として実施し、筑波大学附属高生と同様の内容を視聴した。キャリアカフェを年間2回実施（1回はオンラインでの実施）し、両校生徒の希望者が参加した。
		2. 授業交流	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策を徹底しつつ、可能な範囲で大学や附属校園との授業交流や授業公開を行うよう努力した。 ・オンラインで高校家庭科と小学校家庭科との授業交流を行った。さらに小学校給食において連携した。 ・「生活の科学」、「新教養基礎」、「課題研究基礎」、及び「課題研究I」で、大学の教員による授業を実施した。 ・京都大学高大連携プログラムを活用し、「課題研究I」で研究者による授業を実施した。
		3. 教育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・通常7月と9月に各3週間ずつ実施していたが、今年度は一部大学による代替措置があり、9月と10月に各2週間で実習を行った。 ・前期23名、後期15名の教育実習を行い、教科指導の専門性の向上、教員として必要な資質・能力の育成を促した。 ・教育実習専門部会との連携を密にし、実習が有意義に行われるよう指導した。
		4. 専門委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・各専門委員会はその目的に沿って適切に活動した。 ・入学進学専門委員会では、連絡入学及び一般入試の公正・適切な実施に向け、情報を共有し、対応を検討した。 ・教育推進専門委員会では附属間の連携研究を進めた。
		5. 大学の講義担当	<ul style="list-style-type: none"> ・5教科7名の教員が教科教育法の授業を担当し、新型コロナウイルス感染症感染防止対策に努めつつ、その効果が上がるように実施した。 ・教科教育法以外の授業（3科目）を3名の教員が担当した。
		6. インターンシップ	<ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの学生については、学部から地歴科（地理）で3名（うち1名は保体科と兼務）、保体科で1名（地理と兼務）を受け入れ、研究に協力した。
	その他		
	II 社 会 貢 献	1. 授業参観 研修生の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染防止対策徹底のため、外部からの授業参観・学校訪問等の受け入れは2件であった。
		2. 公開教育研究会開催	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に成果発表会・研究協議会兼第3回運営指導委員会兼公開研究会を、外部参加者向けのオンラインと在校生向けの対面形式を組み合わせ実施し、成果の発信や意見交換を行った。
		3. 初任者研修・現職研修	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研修に1名参加した。
		4. 途上国支援	(2020年度該当なし)
		5. 出版活動	<ul style="list-style-type: none"> ・研究紀要を適切な内容で適切な時期に発行し、お茶の水女子大学教育・研究成果コレクションTeaPotへ掲載した。 ・SSH指定校として、報告書、生徒成果集、英字新聞、SSH概要説明リーフレットを作成した。
		6. 各種研究会への協力	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症感染防止対策により、例年通りの開催形態による研究会開催が中止となり、講師派遣等依頼はオンラインによる2件となった。 ・学内外の研究会等に可能な範囲でオンラインで参加した。
その他			

2020年度 学校評価(自己評価)重点目標まとめ

1. 教育課程の編成(A-I-2)

- ・教育目標に即し、新学習指導要領に向けて適切な教育課程の編成を検討する。
- ・SSH指定校として、教育課程を適切に実施する。
 - ⇒ SSH指定校として新しい教育課程の運用・実施に努力するとともに、新学習指導要領への移行を見据えたカリキュラム編成を行った。

2. 研究・研修(A-I-7)

- ・SSH指定校(2年目)として研究開発に取り組む。
 - ⇒ SSH指定2年目として研究開発に取り組み、今年度から開講した学校設定教科・科目を実践するとともに、来年度開講予定科目の施行にも取り組み、3年目に向けて準備を進めた。
 - 3月に成果発表会(兼公開教育研究会)を開催し、生徒のプレゼンテーションをオンラインで配信するとともに、研究報告書、生徒の論文集を作成した。

3. 施設・設備(A-II-3)

- ・校舎改修後の施設・設備の未整備箇所を順次整備するよう努力する。
 - ⇒ 新型コロナウイルス感染症感染防止対策・防虫対策として、校舎及び体育館の未整備箇所に網戸を設置した。また、特別教室(合併室・化学室)のICT教育環境備品を更新した。

4. 健康(A-II-4)

- ・学校保健安全計画に基づき、生徒の健康の保持・増進ならびに安全教育に努める。
 - ⇒ 新型コロナウイルス感染症感染拡大による休校時には適時に健康観察や健康調査を実施し、学校再開後の感染症防止対策として、Moodleを活用した毎朝の検温・健康観察を実施し、感染防止に努めた。

5. 安全(A-II-5)

- ・減災の観点から、大学と連携して安全管理体制を見直し、その充実に努める。
 - ⇒ 校舎改修後の安全管理体制を見直し、安全管理マニュアルの更新を行った。

6. 連携研究(B-I-1)

- ・高大連携特別教育プログラムの円滑な実施に努めるとともに、「新教養基礎」の運営改善に取り組む。
 - ⇒ 「新教養基礎」は新型コロナウイルス感染症感染拡大による休校のため、授業が一部実施できない回が生じたが、オンラインでの実施も試みるなど授業形態を変え、有機的に学べるよう改善を行った。